

深仙宿周辺の整備（大峰友の会との合同作業）

◇ 実施日； 9月23日（火） 晴

◇ 参加者

新宮； 沖崎吉信、豊嶋寛、橋本梓、濱野兼吉、中前偉、松本
吉殖、阪口秩臣、東茂男、大江加予子、畑林清子、生

熊千満子

三重； 西克、高階鈴子・美根子

大阪、奈良； 梶野照雄、榊本真人、高橋桂太

大峰友の会； 浅井證善（奈良市龍象寺住職）

金屋英生（広島県福山市東福音）

丹波良一（四日市市大和宏設）

帰山快丈（四日市市）

山彦 17名 大峰友の会 4名

一か月前の8月下旬、大峰友の会の浅井證善氏から電話があった。「深仙宿香水水の水槽に水が溜まっていない。コンクリートの欠損かひび割れかは不明。被せてある蓋の木も腐って、蓋の役目を果たしていない。ついては蓋の資材調達と設置を当方で行うので、水槽の腐臭を山彦にお願いした。」との要請であった。

9月10日に梶野、松本の二人が深仙宿に向かって水槽を調査した結果、コンクリート製の水槽本体にひび割れや欠損は無く、水槽株に設けられた排水口の栓が無くなっているだけと判明した。



荷物を分担



登り始める



古田の森で



梯子を設置



9月10日、水槽の状態



調査結果の報告を受け、浅井氏に連絡したところ「9月28日（火）に何人かで新しい蓋を持って向かい、一泊二日で取替作業を行う。同時に千丈平く深仙宿間の笹も刈る。」とのことであった。

香精水の水槽は平成6年(1994年)深仙灌頂堂を修復した際に設置したもので、27年が経過している。

当ぐるーぷも年内に大日岳、五角仙、聖天の森の3ヶ所に靡看板を設置予定で、松本君からも避難小屋の窓増設工事の申し出も頂いていたので、窓に関わる資材荷揚げも兼ねて9月28日同行することを浅井氏にお伝えした。

9月26日に新宮市で一時間雨量が70mmを越える大雨が降り、28日も天気予報は曇り一時雨であったが、大雨ではなさそうだったので実施することにした。



排水口を改良



蓋を加工する



水受け鍋を戻す

朝8時半、太尾登山口に17名が集結。出発前に本日の予定と「安全第一、無理するな」を伝える。

本日の主な作業は以下の通り

- ◎ 香精水水槽の排水口改良と清掃
- ◎ 水槽の蓋取替(大峰友の会)

◎ 千丈平のかくし水に案内標識設置

◎ 深仙避難小屋の窓増設資材の荷揚

◎ 千丈平く深仙宿間の笹刈りと梯子取付

◎ 大日岳に靡看板設置

大峰友の会の4人は30分ほど前にスタートされたようだ。アルミ梯子や窓枠の角材、工具等を分担して8時45分に登り始めた。今にも降り出しそうな曇り空だがなんとか雨具を付けずに行けそうだ。不動木屋登山口の合流で小休止し、古田の森手前で大峰友の会の3名に追いついた。広島県から参加されている金尾さんは法衣着用で刈払機を担いでおられるが、足元を見るとクロックス風のサングラスだった。「私は草刈り要員です」との事だった。

いつも通り、古田の森と千丈平で休憩する。千丈平に降りる前に、かくし水の案内標識を設置した。かくし水の場所について縦走者からの問い合わせが結構多く、目標が少ないために説明に苦慮していたので今回標識の設置を思いついた。昨年奥駈道三差路に取り付けた標識と、今回の標識とで場所の説明がしやすくなった。

捲き道に入りほんみちの橋を過ぎたあたりから笹の茂りが激しくなり、足元の見えない箇所が続く。お昼近くになったこともあり、笹刈りは帰り道、登りながら行うこととして下り続けた。

伊富喜行者入定地で榊本君が持参した御供を並べて中前君導師で勤行を行う。

10mほど下方の岩に梯子を設置する作業を4人にお任せして先行、深仙宿には11時半過ぎに到着した。11時頃から小雨が降り出し、お堂前と避難小屋に分かれて昼食を摂った。

雨具着用の浅井氏に挨拶。大日岳の靡看板設置は降雨のために次回に見送りとし、五角仙と聖天の森の位置確認にだけ5人で向かった。事前に椎木さんから資料を頂いたので、およその目星はついていたが、奥駆道から10mほど上の岩峰下に碑伝4枚を発見した。内一枚は令和3年桜本坊のものだった。これで一つはクリアー出来た。2〜3分進んだところ、左手に露岩の重なりがあつて踏み跡もある。5人が四方から探すが碑伝は見つからなかった。

森沢さんによると、五角仙は三日月石、行者はばき石、烏帽子石など五ヶ所にあつた岩の総称である。ということだ。この岩峰帯全部を五角仙としたのであろう。

ただ、碑伝を置いて勤行するのは一ヶ所に限られるのが普通である。碑伝が広範囲に散らばって置かれている靡は見ることがない。浅井氏からも、容易に看板を立てるのではなく十分に研究、勉強したうえで設置を、をとの注文もあるので今後の宿題とした。



笹刈り前の状態



笹刈り後



梯子取付のためのアンカー

香水水槽の排水口は直径13mmの水道パイプが埋め込まれているが、この内側に入るステンレスパイプを松本君が作ってこられ、このパイプを水中ポンドで既存の排水口に固定した。細いパイプからの水を受けている鍋下の岩を全部降ろし、水槽を清掃。再び岩を積んで鍋を元に戻した。

大峰友の会が準備した蓋は厚さが2mm程度のポリカーボネイト板2枚で、強度に少し不安があるため、2枚を重ねて使うように勧め、設置は大峰友の会にお任せした。

千丈平までの笹刈りが残っているので、浅井氏らと別れて深仙宿を離れた。女性陣はすでに出発されていて後を追う形となった。

10分ほど登って笹が茂っている箇所にはさしかかるが、きれいに刈り広げられて、どこに茂っていたかもわからない状態になっていた。



本日の参加者、千丈平で

登山口着

次回行事の説明

その先も残りを少し刈るだけだ。伊富喜行者石碑手前の岩も梯子が付けられたおかげで難なく上ることが出来た。この梯子の少し下方

にも岩の段差があり、もう一つ梯子を付けるために岩に穴をあけてアンカーを打ち込み、足元固定用の鉄筋をデポした。

ほんみち橋より上は大峰友の会の金屋さんが電動の刈払機で刈ってくださった部分があり、残った笹を刈りながら千丈平に着いた。

17名全員がカマやハサミを持ってきてくださって、人海戦術で笹刈りをした結果、予想していた以上の成果で、足元が見えないところは無くなった。皆さんご苦労様でした。

千丈平で休憩の後、下山した。

早朝の出発で車中も長く、登山口から現場までも遠い。日も短くなってきたので深仙宿へはこの時期位までかとも感じる。

皆さん大変お疲れ様でした。

(記：沖崎)

行動タイム

太尾登山口 08：45→10：12 古田の森→10：55 千丈平→11：35 深仙宿
13：00→14：45 千丈平→15：22 古田の森→16：30 太尾登山口